令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ
『協同による地域循環共生圏の再生』

活動団体の活動地域：鳥取市、八頭郡八頭町

活動団体名　　：ワーカーズコープさんいんみらい

中間支援主体名　　：㈱市民エネルギーとっとり

参加団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団さんいんみらい事業所
活動地域	鳥取市、八頭町、若桜町

専門性・強み

＃協同労働　＃就労支援　＃伴走型支援
＃こども食堂運営　＃人・行政・事業者をつなぐ
◎参加型の事業所運営、協同労働による事業、他人事にしない関係づくり、地域づくり
◎-就労支援事業では、就労意欲の喚起・保持・カウンセリングによる支援、就労の場の創出など、伴走型支援を目指した活動をしており、就労支援に関しての知識・経験。
◎意欲喚起事業で、耕作放棄地を借りて、農作物の作付から収穫を支援対象者と一緒に行っている（鳥取市）
◎同事業で、田んぼを養殖池に整備して、ホンモロコの養殖を行い、その飼育作業を支援対象者と行っている（八頭町）

団体の概要

（ミッション）みんなで協同し、「ともに生き、ともに働く」社会をつくる『協同労働』を地域のみなさんに伝え、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

（概要）
・被保護者就労支援事業
・被保護者就労準備支援事業
・生活困窮者就労準備支援事業
・生活困りごと相談窓口事業
・児童クラブ7館運営　・放課後等デイサービス
・こども食堂支援ネットワーク事業（“えんたく”約100団体）
・こども食堂2ヶ所運営
・清掃事業　・居住支援事業

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	株式会社市民エネルギーとっとり
活動地域	鳥取県主に東部

専門性・強み

＃くらしの地産地消　＃産官民連携プロジェクト
＃参加型の資金調達　＃省エネルギー診断・提案
＃地域事業おこし　＃エネルギーエージェンシー・伴走支援、
＃専門家・先行事例等紹介

団体概要

（ミッション）エネルギー、食、お金、なりわいなど、“くらしの地産地消”を通して、分散・自治型の地域の社会インフラを整えることで、FEC（食、エネルギー、ケア）自給圏の実現をめざし、自然と共生する持続可能なふるさとを子どもたちに手わたすことを目的としています。

（概要）
・参加型発電事業（市民・地域共同発電所）により生まれる価値の地域還元・循環創出
・地域の特産品を活用し、生産者、地場産業、教育、福祉分野等との連携による循環型社会形成に貢献
・停電時に発電する電気を発電所で活用しレジリエンス向上

活動団体と地域の紹介

活動団体	
	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団さんいんみらい事業所
	活動地域：鳥取県全域
	「働く人が主人公」の理念のもと、地域に必要な仕事を自分たちでつくり出す労働者協同組合です。就労支援や子どもの居場所づくり、生活困りごと相談など、福祉と地域づくりを一体的に進めています。また、「食」や「つながり」を大切にし、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。人と人が支え合い、働くことを通じて地域が元気になる——そんな社会の実現を目指しています。

地域の基礎情報

・鳥取市：（765.31km2）人口2005年20万人⇒2026年18万人　高齢化率31.1%（2025年）

・八頭町：（206.7 km²）　同　約2万人⇒　同　1.4万人　　高齢化率36.4%（2020年）

鳥取県東部に位置する八頭町は、中国山地の山々に囲まれ、清流・八東川の流れに育まれ、農業や林業などの営みが今も大切に受け継がれています。特に、梨や柿などの果樹栽培が盛んで、新鮮で質の高い農産物が地域の魅力を支えています。近年では、移住・定住の取り組みや地域資源を活かしたまちづくりが進められており、自然と共に暮らすライフスタイルを求める人々からも注目を集めています。人と人とのつながりを大切にしながら、持続可能な地域づくりに挑戦する町です。

さんいんみらい事業所は、八頭町との関係が深く、地区の公民館でこども食堂を行ったり、耕作放棄地を活用してホンモロコの養殖をしています。

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

魅力あるふるさとにUターンする若者や、その魅力に気づいた移住定住者を多く引き込み、人口減少・流出が少ない地域。地域に若者が定着することで、第1次産業の担い手の解消、それに伴って、地域産業や生産活動が活発になる地域。

ボランティア活動に積極的に関わる県民性を活かして、住民主体の地域づくりを積極的に行ってもらい、社会・環境・経済の同時解決が進み、地域活性化につながっている地域。

→人も自然も　経済も調和し循環する“飛ぶ鳥”を落とす勢いのあるまち。

そのために、安心できる居場所づくりと、地域と共生する仕事づくりを通して、協同による地域循環共生圏の再生をめざす。

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

プラットフォームでは、地域でネットワークのハブ機能を備え、地域を将来につなぎ、誇れる地域であり続けるために必要なこと、自身が挑戦したいことを気軽に言い合い、対話し、応援し合う場（安心できる居場所と共有の拠点）をつくる。

また、地域づくりの主体を生み協働することで、地域の資源循環づくりや、協同による仕事づくり（事業創出）の支援機能を果たす体制を整える。

一人ひとりがこうありたいと願う「生き方」「働き方」「暮らし方」が当たり前として受けいれられる社会が広がることに、大きな希望と可能性を見出せる仕組みをつくる。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

鳥取の地域資源を生かしたふるさとの魅力創出と生き・働き・暮らしやすい地域づくりに向けて、以下の事業に取り組む

①遊休農地や耕作放棄地を活用したコミュニティ・ガーデンづくりによる地域食堂や地元飲食店・小売店等へ地元食材の提供・居場所づくり・新たな商品開発

②地域食堂や地元飲食店の廃棄部分を活用したたい肥やBDFなど新たな資源循環と協同による仕事づくり

③脱炭素（省・創エネ）×福祉：参加型の断熱改修を通した心地よい居場所と仕事づくり

■地域の現状と課題

- 人口減少・流出・高齢化
- 生産者である農業の担い手減少（鳥：10年間35%減少、八頭：同30%強減少）。
- 荒廃地増加：鳥・10年経営耕地面積25%減）、八頭・柿栽培面積、4年で25%減
- 農業など地域産業や生産活動が衰退し、雇用が減り、地域コミュニティ（地域社会）を支える住民自治活動ができなくなるなど、日常生活を地域で支えることが困難になっている地域がある。

（参考）ローカルSDGｓ事業の紹介

①『遊休農地×福祉（大豆栽培』

【概要】
・協同による仕事づくり、安心できる居場所・拠点づくりが重要と位置づけ、まず「遊休農地×福祉」事業に着手。
・大豆は、鳥取の食文化・歴史に根づいていること、これからの可能性（作りやすさ、保存性、無農薬大豆や健康、ヴィーガンニーズ等）に着目。

・遊休農地に大豆を作付け、秋に収穫し豊作
・10月に収穫体験を実施。
・高校生による大豆スイーツ試作・試食会を開催
・大豆を試行的に販売し、共生圏事業について周知を進めるとともに、協力者の巻き込み、商品化の方向性、可能性を模索中

【段階】試行・試験　【実施時期】2025年4月～

【活用している自然資本・地域資源】
・鳥取市賀露地区の農園（遊休農地）、・八頭町の有機農業

【事業により生じたor 生じそうな成果】
・（②と共通）新商品を開発し、名産品を生むことで、遊休農地、管理されなくなったため池等の再活用がすすみ「生産拠点」へ転換できる。

今後の展望
・量産に向けて大豆を生産する農業者を巻き込む
・粉末化など加工面での連携先や先行事例を調べ、視察等行い解決策を探る。
・（②と共通）販路の開拓・拡大に向けて学童クラブや地域食堂の関係者などその座談会を予定（巻き込みと周知）。

②『遊休農地×福祉（ホンモロコの養殖）』

【概要】
・ホンモロコは、かつて鳥取・八頭で盛んだった養殖が衰退し、食べる機会が激減、地元でも幻に近い魚となっている。
・食材としての可能性を広げ（骨ごと食べられ栄養価高い）、高付加価値魚であり、地域産業、名産品として再生していく。

・耕作放棄地をため池にし、養殖を実施。11月に収穫、豊作。給食食材等に活用。
・12月に元生産者の聞き取りを実施。かつての地域産業としての位置づけ等を掘り起こし
・3月：養殖技術、販路、酷暑対策等を学ぶ視察を実施予定（埼玉）

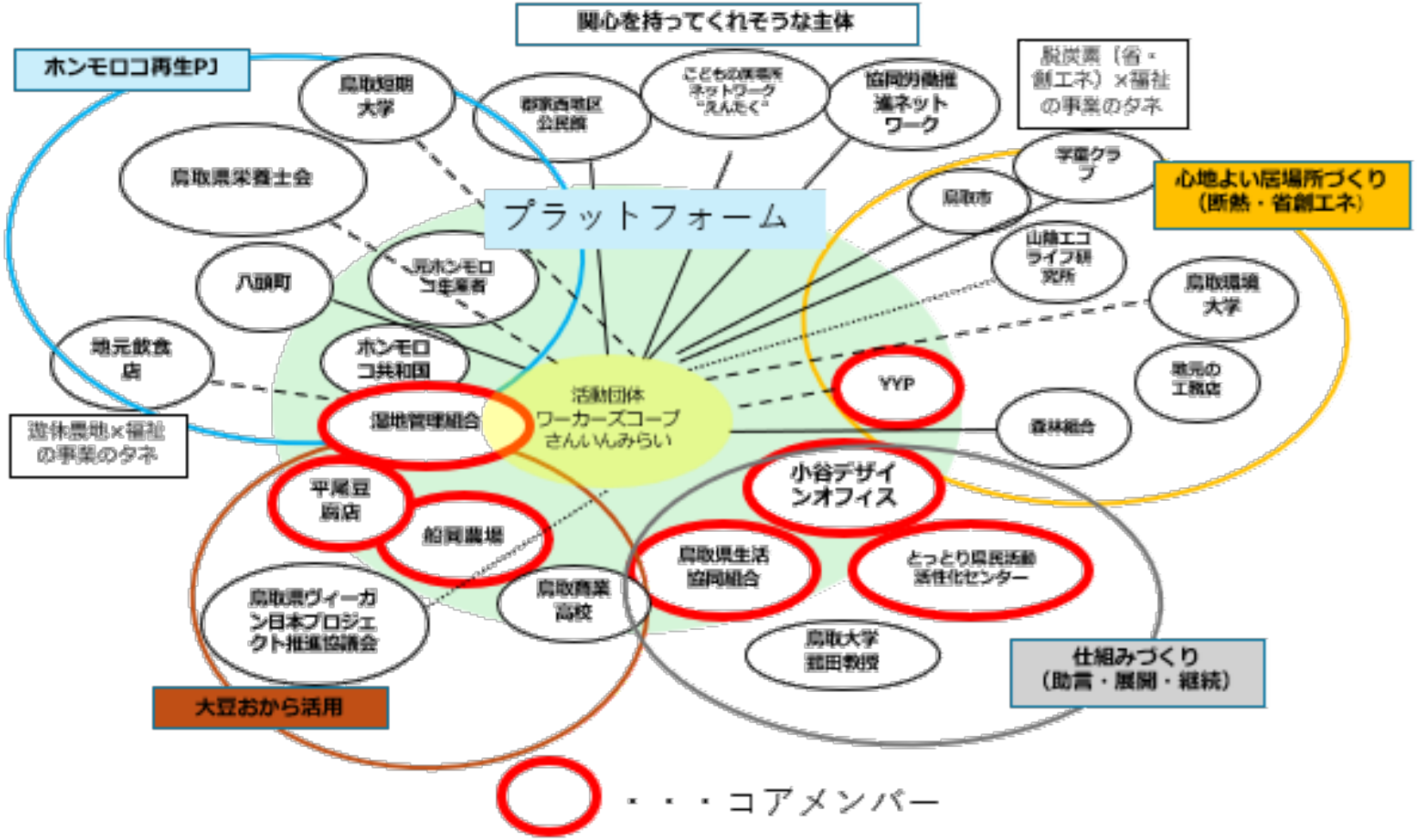
【段階】試行・試験　　【実施時期】2025年4月～

【活用している自然資本・地域資源】
・八頭町の養殖池（耕作放棄地）・生産者ネットワーク

【事業により生じたor 生じそうな成果】
廃棄のおからをホンモロコのエサとして活用
（①と共通）就労支援事業、兼業、高齢者の経験活用、障がい者の就労機会など、協同による仕事づくりにつなげ、環境・経済・社会面での好循環が生まれる

今後の展望
・安定した質・量の生産体制の構築に向け、かつての生産者と情報交換し、技術継承、適地、販路など情報整理を進める。
・（①と共通）遊休農地・空家・移住定住をコーディネートしている地元団体（YYP）と連携し担い手を広げる。心地よい居場所づくり（参加型断熱DIY）の展開につなげる。

（参考）現状の地域プラットフォーム



（参考）現時点のマンダラ

鳥取県
八頭郡八頭町

人口減少・流出が少ない地域

地域に若者が定着することで、第1次産業の担い手の解消、
それに伴って、地域産業や生産活動が活発になる地域

未来

仕事づくり 居場所づくり

地域資源

- 耕作放棄地
  - ・柿畑・田畑
- 元養殖場
- 空き家
- 地域センター
- 地域の飲食店
- 地域のノウハウ

活用できる
地域資源

協同による
事業・取組

事業

- ホンモロコ養殖
- 野菜栽培
  - ・大豆・レンコン

取組

- レシピ開発
- 事業紹介イベント
  - ・釣り体験・マルシェ
  - ・試食会
- ノウハウ共有の場
- 栽培技術継承の場
- 空き家改修

想定連携先

- 行政機関
  - ・八頭町役場
- 教育機関
  - ・鳥取大学・商業高校
  - ・八頭町小中学校
- まちづくり会社
  - ・YYP
  - ・シーセブンハヤブサ
- 福祉作業所
  - ・障がい者就労支援施設「たんぽぽ」
- 地域のお店・農家
  - ・YYP・船岡農場
  - ・シーセブンハヤブサ
- 地域住民

地域課題

- 人口減・少子高齢化
- 耕作放棄地・里山荒廃
- 担い手不足
- 若者流出
- 働ける場不足

現在

YYP：「再生」をコンセプトとして活動する地域づくり支援団体。　シーセブンハヤブサ：廃校となった旧隼小学校を活用したコミュニティ複合施設「隼Lab.（はやぶさラボ）」の運営・管理を行うまちづくり事業会社

３カ年状態目標

■2027年度末の状態目標

・新事業を立ち上げ、実施主体は、新しく労働者協同組合などが設立されている。
・新しい仕事が生まれて、地域資源の循環に基づく産業が活発化、遊休農地の活用や居場所づくりが進んでいる。
・プラットフォームが活性化している。

■2026年度末の状態目標

・地域を将来につなぎ誇れる地域であり続けるために必要なこと、自身が挑戦したいことを気軽に言い合い、対話し、応援し合う場をつくるプラットフォームが構築されている。
・大豆とホンモロコの商品開発、居場所づくりの取組みが進んでいる。
・レシピ開発のイベント（コンテスト等）を開催し、賛同者、協力者、応援者などを増やしている。

■2025年度末の成果と振り返り

・コアメンバーが形成され、ビジョンづくりに向けて地域課題やローカルSDGｓ事業（遊休農地×福祉など）について課題をだしあい、地域資源やステークホルダーについて意見出しができた。
・高校生や生産者（ホンモロコ、大豆等）など色々な主体を巻き込み、地域の課題や目指すビジョンについて話し始め、レシピ開発など商品化に向け動きはじめている。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

•これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。（最低3つ記載ください。）

	優先するアクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと（ヒト/モノ/カネ/仕組み/機能等々）
①	事業主体を探す・生み出す	年度内	ローカルSDGs事業“遊休農地×福祉（大豆、ホンモロコ）”について周知を行い、より多くの方に知ってもらい、賛同者を募る。事業についてや事業計画に関する基礎的な情報の整理や共有を行ったり、事業を生み出し続けるために必要なことを学ぶ機会を設ける。	若い人材、また地域の資源を生かしたい方が必要である。 事業計画の作成やその事業を実施するための推進チーム作ること。
②	仲間を増やす	年度内	ローカルSDGs事業が地域に根付くように、地域、行政の方を取りこむ。一緒になって鳥取の課題解決に向けてのアクションを起してくれる方を巻き込む。その中には事業主体となってくれる方がいる仲間を見つけたい。	人脈。人から人への繋がりを持つことで、一緒になって活動していく人を多くまきこみたい。 当法人が今まで築き上げてきた多様なネットワーク団体との連携を活かすこと。
③	地域ビジョンを描く	必要時。 1年目に完成しているビジョンを都度ブラッシュアップする	1年目にビジョンが完成したが、 事業を進めていく中で常に見直し、ブラッシュアップしていく	コアメンバーなどの仲間と一緒に目指す鳥取の姿を共有する時間を設けながら進めること。

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

活動団体の課題や地域で果たしたい役割、ニーズを踏まえ、俯瞰的な目線で、分野横断的なステークスホルダーを巻き込み、停滞を突破するコーデイネートを行えるようになる。
協同労働分野の多様な事例を学び、その強みとネットワークを活かした資源連結・プロセス支援を行い、ローカルSDGS事業を生み出すプラットフォーム構築、実施主体を後押しする仕組みの検討、地域課題の同時解決アイディアや取組などが整理されている。
具体的なアクションとして、地域の持続可能性を向上するための具体的な支援（特に課題把握、人材を発掘、対話創出、変革促進、資源連結、問題解決提示・事業化支援）やコーディネートを行う。

・社会福祉や協同労働分野の仕事づくりについて学び、理解を深め、地域資源循環型の事業や拠点・仕事づくりを強みにしていく。

・それによって、地域づくりの頼られる相談役や活動おこしや事業化の後押し役になる。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

FEC自給圏と自然と共生する持続可能なふるさとを実現するため、
・食べるもの・エネルギー・ケア、なりわいやお金の地産地消＝“くらしの地産地消”を実践する担い手や拠点を増やしていく。
・ローカルSDGsに関心を持つ主体同士の交流や連携の輪が広がり、みんなで協同し頼りあい、誰もが安心して暮らし続けられる地域共生圏づくりを加速する。

・社会福祉や協同労働分野の地域共生・資源循環型の仕事・居場所づくり、体制構築の支援を通して、、協同による経済圏を広げ、公正な移行の受け皿を増やしていく。
・他地域の中間支援主体と連携し、農福エネ連携の拠点を増やすことに貢献していく。
　地域拠点では、協働や共有の関係が深まり、一次産業の担い手や地域の企業が元気になり、多様な仕事や居場所が生まれ、経済が回り共感の輪が広がっている姿を目指す。

・気候変動リスクに対するセキュリティネットとなる担い手（団体や人、ネットワーク）や拠点を増やし、より広い地域が中長期的に持続可能になるよう貢献していく。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】	キックオフミーティング	コアメンバー会議 地域懇談会（事業説明会）	コアメンバー会議	地域懇談会（事業説明会）	ミーティング		コアメンバー会議 収穫祭 中間共有会	ステークホルダーミーティング	コアメンバー会議		コアメンバー会議	
					<---	**商品開発・**		**視察・勉強会**		-->		
遊休農地×福祉（大豆栽培）		レシピ開発 農家と懇談	種まき				収穫			商品化	商品化・販路拡大	
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動 **遊休農地×福祉（大豆ホンモロコ養**		放流 生産者と懇談		レシピ開発 生産マニュアル作成			収穫			商品化 共和国再起		
心地よい居場所×仕事づくり（断熱DIY）		**協力団田と懇談**	地域懇談会		体験会					協力者募集	脱炭素・暮らしやすさ創出	
中間支援主体の支援・取組計画	**活動団体サポート、地域主体・専門家紹介、ステークホルダーミーテイングサポート、視察紹介、勉強会開催等**											

備考（補足説明など必要な場合は記載）